

一般質問

「儲かる観光ビジネス」という視点を観光行政に取り入れてはどうか

白河の魅力を引き出し「儲かる観光」の実現に向けて取組んでいく



佐川 京子 議員



充実が重要と考えるが市の考えを伺う。

A 民間事業者と行政が一体となり、互いに連携しながら観光を地域経済の大きな柱の一つとして育て、「儲かる観光」の実現に向けて取組んでいく。

Q 南湖の水のいった冬景色が見られて南湖の美しい四季を存分に楽しめるように、冬期間の水抜き・池干しをぜひ見直して欲しい。



冬の南湖公園

A 環境保全と観光の

両立に向け、池干しのあり方も含め、より効果的な水質改善策を調査、検討していく。

Q 各学校のいじめ防止のために夏休みを開催されている「仁のつどい」に、いじめ件数の多い中学1年生の参加も検討してはどうか。

A 「仁のつどい」は、生徒達自らがいじめ問題に向き合う力を育てることなどで、今後中学1年生の参加や内容の見直しも検討していく。

表郷天狗山の整備について

道路・トイレの利便性向上を検討する



根本 建一 議員



えを伺う。

A 今年度より舗装の末端から約300mの未舗装区間について洗掘防止の工事を順次進めている。今後路面の状況を把握し、適切な維持・管理に努める。

Q 天狗山のトイレの整備について、訪れる方が快適に過ごせるよう整備が必要と思うが、市としての考えを伺う。



年間を通して多くの来場者がある天狗山

A ボランティアグループと意見交換を行い

登山者の利便性向上について検討する。

Q 兼業農家への支援について、表郷地域には、中小規模の兼業農家が多く存在するが、大規模農家に比べ支援や補助金が少ない状況にあるが、今後どのような支援を考えているのか。

A 地域の農業を将来にわたり持続可能なものとしていくことが重要である。多様な担い手を引き続き支援していくため、必要な支援の方向性について調査研究を進める。

大河ドラマの活用推進事業の継続

本市の魅力発信と誘客を促進



植村 美洋 議員



Q 白河市の不登校の児童生徒の数および割合はどのような実態か、伺う。

A 小学生57人(2・08%)、中学生70人(4・49%)となっている。

Q 不登校の児童生徒に対しては、どのような対策・指導をおこなっているか。

A 本人や保護者の状況を適切に把握し、さまざまな形で学習や体験活動の機会を確保し、心に寄り添った支援をしている。

Q 特別支援教育支援員の配置要望は何かあり、何名が配置されたのか。

A 令和7年度は、87名の要望があり、51名が配置されている。

Q NHK大河ドラマの活用推進事業の効果はどのようなものであったか。

A 各種メディアに取り上げられ、小峰城や南湖公園の観光客の増加につながった。

Q 大河ドラマ効果を一過性に終わらせることなく、次につなげる必要があるのではないか。

A 今後も演劇「おらほの殿さん」の公演、観光誘客を目的に、バスツアー、「ゆかりの地との連携」など、地域の活性化につながる事業を検討していく。



さだのぶくん

体験型放課後子ども教室の拡充を望む

コーディネーターの育成と発掘をしていく



緑川 摂生 議員



Q 現在、釜子小で行われている放課後子ども教室の目的と内容について伺う。

A 地域と連携し様々な体験や学習活動を行うことで、子どもたちの社会性、創造性等、豊かな人間性を育むとともに児童と地域住民との交流によるコミュニティの活性化を図ることが目的である。内容は、トチの実を使った笛づくりや、ペットボトルを利用したオカリナ作成、大正琴や和太鼓の演奏体験、ギターやチェロの音楽鑑賞、読み聞かせ、お話し会老人会による昔遊び等で、多くの子どもたちが参加し、元気に活動している。

Q 学校の授業では味わえない「本物」を体験できる素晴らしい事業である。全小学校に拡充してもらいたいが、課題があるのでは。

A 運営全体を取り仕切るコーディネーターの発掘と育成が重要である。子どもたちの学びや遊びに精通し、学校や地域とのつながりを持つ適任者が見つからない。教育委員会や地域団体と連携し、新たなコーディネーターを発掘していく。



農産品生産コスト低減のための支援について

持続可能な農業の実現に向け施策を推進する



永山 均 議員



Q 農業を持続可能な職業とするためには、高騰する肥料や農業機械などの生産資材購入費の削減及び生産性向上など、農産品生産のコスト低減を図る必要があると思われるが、農業者への支援について市の考えを伺う。

A 今後も、持続可能な農業の実現に向け、必要な施策を着実に推進していく。

Q 熊による人身被害が多発したことから、緊急統獵が制度化されたが、対応マニュアルの策定状況について伺う。

A 関係機関、さらには、庁内各課との調整を行いながらマニュアルの策定に取り組んでいる。

Q 主要地方道矢吹天栄線、日和田工区道路改良工事の事業内容と現在の進捗状況、及び事業の全体的な工期の予定について伺う。

A 令和3年度より県において事業に着手しており、現在まで、詳細設計、用地測量及び地質調査が概ね完了している。本工区の早期完成に向け、市としても支援していく。



複式学級が存在、予測される小学校の今後について

学校のあり方を考える検討委員会を設置する



遠藤 公彦 議員



Q 「望ましい適正化基準を満たさない小規模の学校」については今後、どのような検討を進めて行くのか伺う。

A 複式学級が既に存在している五箇小学校、小田川小学校、小野田小学校と今後、複式学級が予測される

関辺小学校で懇談会を開催し、学校の現状や課題について情報の共有を図るとともに、小田川小学校、小野田小学校、関辺小学校においては、学校のあり方を考える検討委員会を設置する。

Q 関係人口の重要性を市はどのように認識しているのか伺う。

A 地域の活力を維持していくうえで大きな力になると考えている。

Q 移住定住につなげるために、本市独自のファンクラブや応援団などの創設について市の見解を伺う。

A 創設については、地域と関係人口とのつながりを深める手段の一つとなることから、国が制度設計を進めている「ふるさと住民登録制度」の動向や、他の自治体の先進事例なども参考に検討する。



複式学級

本市の熊の目撃件数は

令和7年度は現在10件



室井 伸一 議員



保護者がすぐに迎えに来られない場合には、学校で待機させ、保護者への引き渡しを確実に行うようにする。



熊の注意看板

Q 学校付近で目撃情報や出没情報があった場合の対応について伺う。
A 各学校で野生動物（クマ等） 出没時対応マニュアルを作成したところである。この対応マニュアルにより、クマの目撃や出没があった場合には、警察に通報をするとともに、保護者へ一斉メールを行うほか、市教育委員会や市農林整備課など関係機関に連絡を行い、危険が及ぶ場合には、保護者には送迎を、警察には通学路のパトロールを依頼するようにしている。また、保護者がすぐに迎えに来られない場合には、学校で待機させ、保護者への引き渡しを確実にを行うようにする。

Q 過去3年間の熊の目撃情報数について伺う。
A 令和4年度7件、5年度3件、6年度26件となっている。

Q 猟友会のメンバー数と平均年齢及び最高齢者の年齢について伺う。
A 猟友会白河支部の市内在住の登録者は60名となっており、平均年齢は約67歳で最高齢者は95歳となっている。

下水道施設の老朽化及び地震対策について

先進的な事例も参考にしながら効率的に進めていく



水野谷正則 議員



Q 公立幼稚園・保育園における園児の運動能力低下対策について伺う。
A 子どもたちの基礎的な運動能力の低下が日常生活にも影響していることを危惧しており、音楽やリズムに合わせて全身や手先を使った遊びや、身体だけでなく脳と心に刺激を与える動きを取り入れた体操も行っている。健やかに成長できるように、運動能力を育んでいく。

Q 定住促進の支援策と実績について伺う。
A 市内へ移住する住宅取得者に費用の一部を補助している。（R5～7年11月現在134件）・行政分譲地を購入し住宅建築者にも助成金を交付している。※中学生以下の子どもを扶養している場合、助成単価を引上げて支援している。（R6～7年11月現在3区画）・子育て世帯や新婚世帯、県外からの移住者等を対象とした空き家の改修費用等の一部も補助している。（R6～7年11月現在9件）引き続き、定住促進に努める。

Q 下水道施設の老朽化対策及び地震対策について伺う。
A 長期的な視点で老朽化状況を予測し、最適管理するストックマネジメント計画及び上下水道耐震化計画をもとに対策を進めていく。



「地域計画」1年目の現状と課題について

地域農業の実態に応じて完成度を高めていく



戸倉 宏一 議員



Q 地域計画策定後の進捗状況について伺う。
A 計画は一度策定して終わりではなく、実態に応じて継続的に見直し、完成度を高めていく。各関係機関と連携し、地域の実態に即した内容となるよう取り組んでいく。

Q 高齢者支援について、一人暮らしの終活支援策について伺う。
A 10月から「白河市わたしの終活登録事業」を開始した。これは緊急連絡先や身元保証人などの情報に加え、エンディングノートである「未来ノート」や医療に関する「リビングウィル」の保管場所、葬儀の事前契約などの情報を市に登録し、緊急時などに指定された親族や消防、警察、病院からの求めに応じ情報を開示するものであり、終末期における医療や葬儀に自分の意思が尊重される。

Q 高齢運転者の現状と支援について伺う。
A 過去3年間の高齢者65歳以上の事故件数は令和4年26件、令和5年25件、令和6年51件となっている。「サポートカー」の試乗会や、地域の高齢者サロンにおける啓発活動を通して、交通安全意識の向上に取り組んでいる。



宅地の擁壁について市の対応は？

パトロール監視を今後対応予定



大竹 功一 議員



Q 9月30日、東京都杉並区の住宅地で、老朽化した擁壁が崩壊し、周辺の宅地に土砂が流出した。市内にも同時期に造成された擁壁が存在するが、それらは安全なのか耐震診断への補助対応を検討しては。

A 擁壁問題については、

国より監視パトロールするよう指示があり、今後対応する予定である。また、耐震診断等補助対応については、国及び他自治体の対応を参考に検討していく。

Q 10月からスタートした「白河市わたしの終活登録事業」は、私がこれまで質問してきた「一人暮らし高齢者の悩みや困りごと」についての支援事業だと聞いたが、内容について伺う。

A 登録項目には、緊急連絡先・葬儀や遺品整理に関するもののほか、「未来ノート」や「リビングウィル」があり、未来ノートは医療や介護、財産に関することなどを記載し、リビングウィルは医療希望のうち、人工呼吸器装置、経管栄養実施など延命措置の希望などを記載できるようにしている。今後は民生委員など

にも協力
をいただ
き、市民
への周知
を図りた
い。



スポーツ施設の総合的な改修・利活用の見通しと複合化

他の公共施設との調整・環境整備に取り組む



吉見 優一郎 議員



Q 合併20年を迎えた本市の今後の市政運営について伺う。

A 人口減少を踏まえ、市民の幸福実感を高める「スマートシユリンク」の考え方を取り入れ、Aーやロボットなどの「新しい産業」の取り組みへの支援とともに、生産年齢人口の確保や、引き続き少子化対策にも注力していく、歴史や文化、自然、産業、スポーツと白河らしくバランスの取れたまちづくりをしていく。

Q 総合運動公園・武道館の今後の総合的な改修・利活用の見通しと複合化について伺う。



国体記念体育館

A 他の公共施設との調整を図り、財源確保に努め、一体的な改修計画の検討を進め、環境整備に取り組み、指定管理者と連携してイベントや大会の誘致など多目的な利活用を図っていく。

Q 都市のデジタルツイン構築を通じた地域オペレーションの展開について伺う。

A 防災や環境保全、交通、インフラ管理、市民の見守りといった将来のまちづくりに必要なシステム基盤になるものと考えており、専門知識のある人材の確保や初期投資・維持管理費用などの課題も含め、先進地事例や費用対効果などを調査研究していく。

東風の台運動公園駐車場、トイレについて伺う

思いやりスペースの確保、洋式化トイレに適時対応する



佐川 琴次 議員



Q きつねうち温泉健康館、東文化センター等でイベントが開催されるたびに駐車場が満車になり、利用者から苦情が寄せられている。隣の山を崩してはとの声もある。歩行が困難な方に対して、思いやりスペースを確保することはできないか

市の考えを伺う。

A これまでも東風の台運動公園内の各施設で調整してきたところだが、今後混雑が想定されるイベントの際には、事前に主催者側と乗り合わせで来場することの周知を徹底させるとともに、誘導スタッフを配置し、隣接する駐車場の案内をするなど混雑解消に努める。なお、歩行が困難な方などに、会場近くに思いやり駐車スペースの確保を検討する。

Q 東風の台運動公園にある屋外トイレは、現在和式が多い状況であるが、洋式トイレに取り替える計画はあるのか伺う。

A 多目的グラウンド南側駐車場及びプールの奥に設置されているトイレについては、令和9年度以降洋式化への建て替えを予定している。また、テニスコート南側のトイレ洋式化についても、適時対応する。



こどもの健診、待ち時間が苦痛にならないような環境改善を!

絵本の置き方などを工夫し、環境を整えていく



大木 絵理 議員



Q 本市独自のこどもの権利条例を制定することに対する市の考えは?

A 本市においてはこどもの権利啓発活動を強化していく。条例については今後事業を進める中で検討する。

Q こども広聴「こえぼす」の周知方法は、こどもの成長や発達に合わせた工夫をするべきではないか?

A 次回の実施に向けて検討する。

Q 「市長への手紙」の公表の実施と名称の見直しを行うべきだと思う

A 「こえぼす」

の状況も参考にし、公表を検討する。名称を含め、事業の検証を進める。



Q こどもの健康診査、パイプ椅子で待ち時間を過ごすのは大変である。待ち時間の環境改善を求める。

A 複合施設移転後は椅子に座らず待つようになる。今後、絵本の置き方を子どもの目線に合わせるなど工夫する。

Q 要支援者における福祉避難所への受け入れ方法は?

A 一次避難所での生活が難しい方のみ福祉避難所へ受け入れられる。

南湖公園の桜の保全と次世代への継承は

恒久的な保全体制の構築を定める



高畠 裕 議員



Q 国の行財政対策を踏まえた市の認識と今後の行財政運営について伺う。

A 重点支援地方支援金は制限もあり、どう使ったら有効かを十分に検討する。

また、時代の潮流を的確に把握し、市の産業振興の強化を図り、安定した行財政運営に努めていく。

Q 南湖の桜の老朽化の実態と延命、更新に向けた中長期ビジョンについて伺う。

A 1303本の桜は7割が樹齢50年以上で老朽化し、多くの樹勢が衰えており「南湖公園保存活用計画」を策定している。文化庁や樹木医をはじめ専門家と交え、管理や植え替えで恒久的な保全体制の構築を定め、歴史的価値を繋いでいく。



南湖の老朽化した桜の木

Q 市職員の人材育成、意識改革、ハラスメント防止対策について伺う。

A スキルアップ研修、行政課題研修の実施により人材育成をし、職員の業務改善の取り組み、提案制度にて昇給や昇格等で意識改革を反映している。

また市のハラスメント防止要綱に基づき取り組んでおり、今後も働きやすい組織風土醸成に取り組んでいく。

国の学校給食無償化方針にどう対応するのか

具体的内容が示された後、対応を考えていく



深谷 弘 議員



Q 国が来年度から全国で学校給食無償化を実施する方針との報道がなされているが、具体的にはどのような内容か。

A 新聞報道では、11月7日3党（自民党、日本維新の会、公明党）の実務者会合で具体的な制度設計の議論を開始。公立小学校の給食無償化を保護者の所得にかかわらず一律で国が支援する方向で検討しているとのこと。12月9日3党から全国知事会に、小学校給食費無償化の費用を国と都道府県が半分ずつ財政負担することが提案され、12日に3党で制度設計をまとめるという報道があった。現時点では具体的な内容は示されていない。

Q 市はどのように対応するのか。

A 現在国において協議中であり、具体的な内容が示された後に考えていく。

Q 国からの財政支援が見込まれる。この際、市として中学校まで給食費無償化を検討・提案するつもりはないか。

A これまでも答弁してきたとおり、学校給食無償化については、国の責任において実施すべきであると考えている。

